

# 国語 (古文)

## 早稲田大学 法学部 1/4

### <総括>

出題数

現代文2題・古文1題・漢文1題

試験時間

90分

例年通り、古文の学力を広範囲にわたって問う出題であった。昨年度より解答数が2つ減った。

### <本文分析>

大問番号	(一)
出典 (作者)	山岡元隣『小さかづき』
頻出度合 ・的中等	稀。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約1330字。昨年より約270字増。
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

### <大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
(一)	仮名草子	問一	マーク	やや難	語句の空欄補充。
		問二	マーク	標準	和歌の空欄補充 (結句に入る適切な語句を選ぶ)。
		問三	マーク	標準	語句の意味 (四段・下二段の違いに注意)。
		問四	マーク	やや易	文の解釈。
		問五	マーク	標準	語の空欄補充 (助動詞)。
		問六	マーク	標準	内容説明 (「作善」の具体的内容を選ぶ)。
		問七	マーク	やや易	文の解釈 (「蛙の願だて」の内容をとらえる)。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

### <学習対策>

古文の読解に必要な単語・文法・古文常識・和歌などをマスターし、文脈を正しく把握する力を養成しておくこと。

# 国語 (漢文)

## 早稲田大学 法学部 2/4

### <総括>

出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間	90分
-----	-----------------	------	-----

昨年度は問題文が1つであったが、今年度は2つの問題文が提示された。  
 昨年度同様、5題構成であったが、記述形式の出題はなく、すべてマーク形式であった。  
 昨年度に比べて、問題文の字数が大幅に減少した。  
 昨年度は漢字が新字体であったが、今年度は旧字体で出題された。

### <本文分析>

大問番号	(二)		
出典 (作者)	(A) 江盈科『雪濤談叢』 (B) 津阪東陽『聽訟彙案』		
頻出度合 ・的中等	稀。		
分量 前年比較	分量 減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加	245字((A)は185字、(B)は60字)。昨年より79字減。	
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)		

### <大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
(二)	随筆	問八	マーク	やや易	書き下し文の問題。「不勝」(たへず)、「輒」(すなはち)に注意するとともに、「誣服」の意味を正しくとらえる。
		問九	マーク	標準	内容説明の問題。傍線部と前後のつながりに留意して、「無何」(いくばくもなく)の意味を正しくとらえる。
		問十	マーク	やや易	解釈の問題。「死」「百口」「解」の意味に注意するとともに、「庖人之死」が話題主語である構造をとらえる。
		問十一	マーク	標準	空欄補充の問題。本文全体の主題をふまえて、空欄を含む文と前後の文とのつながりを考える。
		問十二	マーク	やや易	内容合致の問題(合致しないものを選ぶ)。それぞれの選択肢の内容と対応する箇所を本文中から探し、正誤を丁寧に確認する。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

### <学習対策>

漢文は独立した形式として出題される可能性が高いため、漢文の基本構造をしっかりと理解し、重要単語や基本句形、故事成語、漢詩の学習を怠らず、確実な読解力を養成すること。また、白文に対する十分な準備をしておくこと。書き下し文や現代語訳に合わせて白文に返り点を付ける問題もよく出題されるので、訓練を積んでおくこと。文学史、思想史も学んでおきたい。

# 国語 (現代文)

## 早稲田大学 法学部 3/4

### <総括>

出題数

現代文2題・古文1題・漢文1題

試験時間

90分

昨年度同様、180字の記述問題が出題された。現代の社会や文化が直面する問題を扱う文章が出題される傾向や、空欄補充問題と傍線部説明の選択肢問題を中心にとらえた設問形態は例年通り。ただし今年度は、設問数は昨年度と変わらないが、空欄補充問題の比重が大きくなり、脱落文補充問題が出題された。

### <本文分析>

大問番号	(三)	(四)
出典 (作者)	岡本源太「コペルニクスを読む」(『ユリイカ』2023年1月号 青土社)の一節。	堀千晶『ドゥルーズ 思考の生態学』(月曜社2022年刊)第七章 ノマドのテリトリー 第二節 存在論的ノマドロジーの一節。
頻出度合 ・的中等	入試に出題されるのは稀な著者の文章である。	入試に出題されるのは稀な著者の文章である。
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約3600字。昨年より約700字減。	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約4000字。昨年より約100字減。
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
(三)	科学論	問十三	記述	標準	漢字の書き取り。
		問十四	マーク	標準	空欄補充。ブルーノが「宇宙」や「世界」についてどのように考えていたかを本文全体から読み取る。
		問十五	マーク	標準	傍線部内容説明。「コスモロジーとモラルの二つ」についての説明を選ぶ。
		問十六	マーク	標準	空欄補充。空欄にはブルーノが否定した従来の考え方を表した語句が入る。空欄Eのある段落の「天球概念を完全に放棄して…」が根拠になる。
		問十七	マーク	やや易	脱落文補充。「信」にも「知」にも「不和」が生じるという内容が直前で示されたニに入る。
		問十八	マーク	やや難	空欄補充。ハの「有為転変」が非常に紛らわしく、受験生は迷ったと思われる。
		問十九	マーク	標準	傍線部内容説明。傍線部の「なぜ…これが存在しているのか」に対応するものを選ぶ。
		問二十	マーク	標準	趣旨判定。「ブルーノとコペルニクスとの関係の説明」として「適切なもの」を「二つ」選ぶ。
		(四)	哲学思想	問二十一	マーク
問二十二	マーク			標準	傍線部理由説明。第三段落から「ノマド」と「ある領土から別の領土への遍歴」との違いを読み取る。
問二十三	マーク			標準	傍線部内容説明。とくに第五段落に注目し、「ある個体の命運を決する」の意味を考える。
問二十四	マーク			標準	傍線部内容説明。最終段落に注目し、傍線部の「論点先取的なしかた」と「転倒」の意味を考える。
問二十五	記述			やや難	傍線部を説明する記述問題 (180 字)。本文中に示された「ドゥルーズの思考」に基づいて、ノマド的思考 (ノマディズム) が持つ「存在の一義性」と「アナキー」という特徴を説明する。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・難しめの評論や随筆 (特に現代の文化や社会の問題を扱った文章) の問題練習を通じて、本文全体の構造や趣旨を見きわめる力を養うこと。
- ・法学部の過去問に取り組んで傾向になじんでおくこと。
- ・100~180字の多様な記述問題 (本文要約・傍線部説明・作文) に取り組んでおくこと。設問の条件に応じて柔軟に対処しうるだけの、高度な記述力が要求されている。